

講演会のご案内

主催::実践家庭科研究会 会長 大久保洋子

■ 開催趣旨

小中高を通し男女必修家庭科が実現されて既に20年を超える。グローバル化・少子高齢化など社会が大きく変化する中で、家庭科教育への期待は大きい。今、子供たちに「生きる力」を育てるため、より一層の授業改善、魅力ある授業づくりが求められる。本研究会は40数年の歴史を刻む中で、こうした新たな教育課題に対応するため、講演会や実践女子大学卒業生による教育実践報告会を実施し、その一助にしたいと願っている。

日 時

3月27日(火)

13時25分～

16時30分に終了予定

会 場

実践女子大学日野キャンパス 香雪記念館 1階106教室

第一部 講演

「次世代に伝えたい江戸東京野菜」

江戸東京・伝統野菜研究会代表 大竹 道茂先生

東京農業大学卒業後、JA東京中央会に入会。平成元年より江戸東京野菜の復活に取り組み、平成9年には江戸・東京農業の説明板50本を都内に設置。農水省選定「地産地消の仕事人」総務省「地域力創造アドバイザー」など要職を歴任。著書に「江戸東京野菜(物語編)」等多数。



第二部 教育実践報告

「私の家庭科教育実践から思うこと」

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校 教頭 萩原 明子先生

食物学科卒業(昭和62年度)。卒業後、一般企業に就職。平成6年度から家庭科教員として茨城県立高校で教鞭をとる。その間、「福祉教育」、「伝統文化」を尊重する態度を育てる授業やユニバーサルデザインの視点を取り入れた新しい家庭科の授業づくりなどについて研究し、実践を重ねてきた。本年度から現職。

「家庭科教師2年目の奮闘記」

山梨県立笛吹高等学校 教諭 磯貝 陽先生

食生活科学科卒業(平成27年度)。高校教師になることを在学中に決意し、地元の山梨県でその夢が実現した。家庭科の指導や部活動の指導等に悪戦苦闘しながら日々取り組む。今年度から学級担任。先生方や生徒たちから学びながら、教師としての力を身に付けたいと熱い思いをもつ。

●キャリアセンターからの報告

キャリアセンター次長 田中 三恵子氏

- 家庭科教育に関心のある方、教師を目指す方など、多くの参加をお待ちしています。学生は無料。

問い合わせ先:佐藤 幸子(調理学第二研究室)・高橋 ヨシ子(03-3205-0238)

実践女子大学 日野キャンパス

1 日野駅からの経路



2 交通手段

①日野市ミニバス（京王バス）S市内路線：

日野駅から「豊田北口行」で「実践女子大学前」下車

所要時間 7分程度

<平日> 11時 33分

12時 13分

12時 53分

②タクシー：所要時間 7分位